
「当院における術後合併症の発生頻度と誘発因子・予防法の検討：後方視観察研究」 に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんのカルテ情報を用いた以下の研究を実施いたします。本研究は、埼玉医科大学総合医療センター研究倫理委員会の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2022年1月1日から2024年9月30日の期間に埼玉医科大学総合医療センターにて全身麻酔で手術を受け、術後に持続投与の痛み止め（持続鎮痛法）を使用した患者さんを対象としております。

2. 研究の目的

全身麻酔後には強い痛み・吐き気・喉の痛みや喉のかすれといった合併症が起こることがあります。当院では2022年から術後の痛みチーム（術後疼痛管理チーム）が発足し、痛み治療の統一や術後の吐き気に対して制吐薬使用を呼びかけるなど、術後合併症の予防のため積極的に介入しています。また、術翌日に痛みの評価と合併症の早期発見のため、チームで持続鎮痛をつけた患者さんを回診し、評価しています。それに加えて、新しい鎮痛剤・制吐薬などの薬剤の充実もあり、痛みの程度や合併症の発生頻度も年々変化していると思われま

す。今回の研究の目的は、術後疼痛管理チーム発足後の当院での術後合併症の発生頻度や原因となる因子を調査し、それを元に予防法について検討することです。そのために過去の診療録を調査させていただきます。

3. 研究期間

病院長の許可後～2025年12月31日

4. 利用または提供の開始予定日

2025年2月6日

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

1. 情報の内容

性別、年齢、身長、体重、内服薬、手術の術式、入院病棟、術中制吐薬の有無や種類、術後鎮

痛の方法とその内容薬剤(持続硬膜外鎮痛法・持続静脈注射・持続神経ブロック)術後の身体症状(頭痛・嘔声・嘔気嘔吐・神経障害の有無・痛みの程度・麻酔方法

この研究で得られた患者さんの情報は、埼玉医科大学総合医療センターにおいて、研究責任者である杉本真由が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

2. 試料・情報の取得方法

全身麻酔後に術後疼痛管理チームが回診し評価した患者さんの診療記録等を用います。

3. 試料・情報を利用する者(研究実施機関)

- | | | |
|-----------------|-------|-------------|
| ・埼玉医科大学総合医療センター | 麻酔科 | 杉本真由(研究代表者) |
| ・埼玉医科大学総合医療センター | 産科麻酔科 | 加藤梓 |
| ・埼玉医科大学総合医療センター | 麻酔科 | 加藤崇央 |
| ・埼玉医科大学総合医療センター | 麻酔科 | 小幡英章 |

4. 試料・情報の管理責任者

埼玉医科大学総合医療センター 病院長 別宮好文

お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学総合医療センター 麻酔科 杉本真由

住所：〒350-8550 埼玉県川越市鴨田 1981

電話：049-228-3654(土日祝日を除く 8:30~17:30)

○研究課題名：当院における術後合併症の発生頻度と誘発因子・予防法の検討：後方視観察研究

○研究責任(代表)者：埼玉医科大学総合医療センター 麻酔科 杉本真由